

ネパリ・バザーロ

たより

第 14 号

ベルダレルネーヨ通信

1997年6月

ネパリ・バザーロは、ネパールを中心としたアジア諸国のハンドクラフト製品や食品の企画、開発を行い、継続的に輸入を続けることによって就業の場の拡大をめざすフェアトレード団体です。立場の弱い人々、女性、子どもの自立を支援し、貧困の課題改善に取組めたらというのが私たちの願いです。母体となるボランティア・グループ(NGO)であるベルダレルネーヨ(ネパールの女性の自立と子どもの育成支援の会)のトレード部門として1992年から活動しています。



カトマンズでのガイジャットラ(牛祭り)を描いたもの・・・白井有紀さん画

目 次

- <特集> ネパールの職業訓練校
魚谷早苗 2
- 「生産者をたずねて」土屋春代 5
- 「ネパールの小学校滞在記」
春山洋子 7
- 「活動トピックス」 8
- 「あ!これいいな」
「あ!これ新しい」 廣田麻紀子 9
- 「お便り・本・ホームページ」紹介... 10

特集：ネパールの職業訓練校

自立できる仕事に就くには…

魚谷 早苗

ネパールでは、大学を卒業しても職がない若者がたくさんいます。ちょっとした仕事の募集にも高学歴の人々が殺到してきます。私たちが活動する中で出会った人たちの中にも、政府による訓練プログラムですばらしい木彫りの技術を身につけたのに、それが仕事に結びつかず、日雇い仕事で暮らしている人がいました。あるプロジェクトでは、女性たちに縫製やクラフトを教え、製品を販売して活動資金にしていますが、外国に売れなくなり、受け入れる女性の数を減らしてしまいました。また、私たちが支援をしている子どもたちのホームも、年長の子たちは卒業後の進路を考える時期になっています。通っている公立校は私立校に比べてかなりレベルが落ちるといわれていますし、身よりのない彼らに親族のコネもありません。就職に結びつく訓練を今のうちに、と考えるのですが、ホームを運営するビシュヌさんすらどうしていいのか途方に暮れている状態です。

自立していけるだけの職に就くには、それに見合った技術や知識が必要です。教育費にお金をかけられない貧しい若者たちは、どうやって訓練を受けることができるのでしょうか。どんな訓練を受けておけば、実際の就職に役に立つのでしょうか。私たちは、ネパールの職業訓練事情について調べてみることにしました。まだ、着手したばかりで不十分ですが、その一端をご紹介したいと思います。

<対象となる学生>

ネパールの職業訓練は「技術教育職業訓練審議会」という政府機関が、学校やプログラムの管理開発、訓練生の認定試験、技術指導員養成などを行っています。学校のタイプは様々ですが、多くは教育や就職の面で不利な

立場にある若者向けで、訓練費や教材費は無料もしくは非常に安価に抑えられています。審議会や労働局が管轄している学校では月150から400ルピー(1ルピー=約2円)の奨学金が訓練生全員に与えられ、最低限の食事はまかなえるようになっています。

基礎的な技能レベルならば、5学年修了(小学校卒)または読み書きの能力があれば入学資格がありますが、技術者となるには10学年(高校卒業程度)を修了していなければなりません。

<訓練種目>

訓練校は、地方型と都市型に大きく分けられます。

地方型は、周辺地域から訓練生を集め、その地域の開発プログラム(地方の電化、機械化など)に必要な熟練労働力を育てる目的とします。農業、家畜、建設、保健などの科目があります。

都市型は、全国各地から学生を募集し、政府や民間機関の工業や大規模開発プロジェクト(道路建設、水力発電など)のためのエンジニアリング(土木、機械、電気)に焦点を当てています。自動車機械、縫製、木工、印刷、製図、食品管理などのコースもあります。



バラジュ訓練センターで学ぶ女子学生

<バラジュ技術訓練センター>

訓練校の一例として、メンバーが訪問見学してきたバラジュ訓練センターをご紹介しましょう。

ここは、審議会が直轄運営する6校のうちの一つで、ネパール政府とスイス開発協力の合同プロジェクトで1962年に設立されました。カトマンズ南部の工場地帯にあり、近代的な指導器具や設備を持つネパール最高の技術専門学校と言えます。

訓練科目は機械・電気・配管の3種目で、10学年を修了した200名の訓練生が2年間学んでいます（ちなみに200名のうち7名が女性でした）。授業は実習訓練に力点が置かれています。校内には配線や配管を実際にを行うことができる広い作業場があり、現場での指導を受けるためにネパール各地の様々な産業の研修訪問もしています。また、正規訓練の一部として飾りランプや手押し車など「売れる」製品を企画製作し、地域で販売する機会もあります。その収益をもとに、訓練生全員が修了時に道具一式を提供されます。この道具を使って、修了生はすぐに技能を発揮できるとともに、国中に最新の道具を紹介することにもなります。

卒業生の就職率は92%。審議会の雇用成功水準が82%ですから、かなりの好成績と言えます。卒業生も雇用者もセンターでの訓練内容に満足を感じているようです。

<卒業後の雇用状況>

バラジュ訓練センターの就職状況は優秀ですが、他の訓練校ではどうでしょうか。

同じく審議会直営で地方に設立された5校や労働局管轄の訓練センターを見ると、4人中2、3人が就職できているにすぎないところがほとんどで、科目によっては就職率25%のところや、半数近くの訓練生が就職までに卒業後1年以上を必要とした学校もあります。民間のある縫製訓練センターでは、毎年50名の訓練生を受け入れながら、就職した人はゼ



バラジュ訓練センター授業風景

口という報告がされています。その理由は道具の不備による訓練不足だそうです。

<ネパールの雇用情勢>

ネパールは急速な人口増大に加えて、女性労働力の参入により、求職者が跳ね上がりました。しかし、労働力増加率は経済成長率とは一致せず、失業や不完全雇用の問題を生じ、貧困問題はさらに悪化しています。年々増加する労働力と、現存する失業者や不完全雇用者のために雇用の機会を創出することが、現在の最大の課題です。

一方で、ネパールの人的資源はせいぜい初步の段階で、ほぼ全ての職業で中・上級レベルの技術者が不足するという矛盾が生じています。雇用者は文盲で未熟練の労働力に依存するか、外国人の熟練労働者を当てにせざるを得ず、ネパール人の就職の機会がさらに奪われてしまいます。失業した人々は、低賃金の非熟練工として海外への移住を余儀なくされています。

たくさんの技術訓練校がありながら技術者が不足し、熟練者が求められながら卒業後の失業率が高いのはなぜなのでしょうか。

<訓練校の問題>

学校のカリキュラムは、あらゆる職種での雇用者の労働力要求を調査し、今後10年の需要パターンを予測して決められます。しかし、

実際には予測が体系的でないうえに不十分で、技能の職種は少数しか提供されていません。また、上級の専門技術を教えられる指導者の不足から、訓練は入門レベルが主となり、上級者の技能の強化向上には応じきれず、結果、雇用者には不満足な技術レベルの労働者を採用するしかなくなります。

＜雇用者側の問題＞

政府機関の開発計画がうまく行かない原因は技術労働者の不足にあります。しかしそれは技術者自体がいないだけでなく、募集の仕方に多くの問題があります。必要な労働力の予測が適切に行われないため、募集内容決定が長引き、公募が遅れ、試験や選考も延期されてしまいます。結果、技術者の多くは職に就く前にやる気を失ってしまいます。募集内容自体が、労働市場の状況に合わないという場合もあります。

選考基準は、カーストや性別、宗教、出身で差別しない実力本位制が憲法で規定されていますが、実際には弱者が差別され、優秀な人が選抜されるとは限りません。

新しい知識や技術を得るために必要な採用後の研修も不足しています。上級の訓練プログラムの不足という訓練校側の問題もありますが、訓練が昇格や昇級に結びつかなかったり、研修に出してくれないという雇用者の無理解も少なくありません。

また、ネパールの基本給与は、近隣諸国と比較しても官民ともに低額です。生活費にも足り

＜お知らせ＞

ネパールでフェアトレード商品の企画・販売をしているサナ・ハスタカラのマネージャー、チャンドラ・カチパティさんが、横浜市海外交流協会の研修で来日することになりました。7月末に来日し、3ヶ月半、コーパかながわやネパリ・バザー口で消費者運動や日本のマーケットなどについての実地研修を行います。チャンドラさんも私たちも首を長~くして夏を楽しみにしています。

ない給与は、数年ごとにベースアップされても物価上昇に追いつかず、実質的には年々低下していることになります。そのため技術者は副業を探し、肉体的・精神的疲労により両方の仕事で生産性が低下し、専門技能にも悪影響を及ぼしてしまうのです。

バラジュ訓練センターのパンフレットの表紙に、次のような言葉があります。

“人に一匹の魚を与えるれば、
その人は1日の食べ物が得られる。
釣りの仕方を教えれば、
一生食べていくことができる”

一匹の魚(一過性の寄付)よりも釣り方(技術)を指導をしていくことは重要ですが、食べられる魚の釣り方(有用な技術)でなければなりませんし、食べ方(技術の生かし方)がわからないといけません。釣った魚を買っててくれる店(就職先)がないと、せっかくの魚も腐ってしまいます。

参考资料 ·

- ・「海外調査報告」(財)海外職業訓練協会
 - ・各種職業訓練校パンフレット(バラジュ
技術訓練センター・ケンペシュワール技
術学校・廿ノティミ技術学校)

資料協力・

チャンドラ・P・カチパティ氏
(サン・ハスタカラ)

私たちの会では、ネパールの職業訓練についての調査を始めたばかりです。通信でご報告するには未熟なものだったかもしれません。しかし、職業訓練の状況は、ネパールの人々の職業的自立を願う私たちにとって非常に関連が深く、興味深いもので、今後も調査を続けていくつもりです。ご意見・アイデア・情報などお寄せください。

生産者をたずねて その3

- マヌシ -

染めと織りには自信があります

土屋春代

出会い

パドマサナさんは、約束の12時きっかりにホテルロビーに迎えに来てくれた。彼女は、待っていた私を見つけると突進(?)してきて、ギュッと抱きしめた。そして仕事場へ着く迄、プロジェクトのこと、何を目指しているか、ネパリの目的等々を話しまくり、聞きまくった。パワフルで疲れを知らない人というのが私の印象だ。初めてお会いしたのは、昨年の春、カトマンズのオーストラリア大使館の中庭でフェアトレード展が開かれたとき。参加していた7つのNGOの1つとして、マヌシのブースがあった。絞り染めの美しいパンジャビドレス用の布地に魅せられて物色していた私を、案内していたサナのチャンドラさんが、パドマサナさんに紹介した。

以前から、サナを通してしぼり染めのバッグを輸入していたネパリ・バザーロと知って、パドさんは喜び、事務所兼工房に来て仕事を見て欲しいと招待してくれた。製品がどこで、誰によって、どんな風に作られているのか、全て見たい私は、数日後早速訪ねたいと連絡した。そして、パドさんが迎えに来てくれたのだ。

カトマンズ市の中心に近く、王宮から歩いて15分程離れたギャネッソールという所に、2階建ての一軒家があり、そこがマヌシの事務所兼工房になっている。



いつも元気なパドマサナさん

入口に続く部屋には各国のNGOから送られて来るニュースレターや草木染めの原料の入ったBIN、絞り染めのデザインサンプル等が並び、隣の部屋には製品のストックやサンプルがぎっしり詰まっている。化学染料がまだ主流だが、環境のためにも1年前から草木染めを研究し増やしている・・・と幾つかの色見本を見せてくれた。

奥へ進むと、デザイン室があり、更に奥が縫製室になり、5人の女性がスリッパやバッグを縫っていた。庭に出ると、簡単な屋根を付けただけの囲いがあり、絞りと染めの工程をしていた。

木綿の糸を何重にも巻き、絞り模様をつくる仕事は見ても気の遠くなるような作業だ。クルクルとリズミカルに手早く動く彼女の指を見て、経験の重さを感じた。時々質問すると、手を動かしながら応えてくれる。

その後、何度も足を運ぶようになった。

ある時、ネパリのオーダーしたクロスの染めで、色を間違えたことがある。その日、いつも染料の調合をする女性が休みで、他の人がやったため間違えてしまったらしい。タライの中で、染色液に浸した途端、私も皆もアッと思ったが、時すでに遅し。藍色の予定がうぐいす色になった。すると、とっさに一人が「お客様はいろいろ。沢山の色があった方が喜ぶわよ」と私にニヤッと笑いかけた。「ダメよ。オーダー通りに作ってくれなくては。でも、もしきれいな色に仕上がったら買うかもしれない」と答えると、一斉に皆で「きっと、きれいに仕上がるわ！」パドさんも、皆も私も大笑いした。実際、きれいな色に仕上がり、買うことになったのだが。

マヌシの活動

ここでは、15人のスタッフが働いている。デザイナー、マーケティング、カッティングマスター、事務員、絞り、染色、縫製の技術者。

他に郊外や地方の村にも仕事をする女性達が140人いる。このマヌシ(サンスクリット語で人間という意)はいつ、どうしてできたのか。

マヌシを主宰するパドマサナ・サキヤさん(49才)は、以前、女性問題を専門に調査するNGOの役員を努めていた。そこで様々な問題を知るうちに、何か具体的な行動を起こさなければと思い始めた。調査で関わった女性達からも、仕事が欲しい、少しでも収入が欲しいとせまられた。どの問題の背景にも貧困問題が大きく影響しているのを知ったパドマサナさんは、彼女らの仕事づくりを手伝おうと、1991年にマヌシを発足させた。

パドさんの呼び掛けに応じた発起人の7人は、それぞれフェアトレード組織を実際に運営しているエキスパート達だった。私も6年前に出会って以来、大きな影響を受けているシャンティ・チャダさんもその一人である。シャンティさんのことは、別の機会に改めて詳しくお伝えしたい。

マヌシが発足後、まず最初にしたのは、両親の収入が少なく、学校を続けられない少女を15人集めてトレーニングすることだった。手工芸のトレーニングだけではなく、経営やマネージメント、マーケティングも教え、中にはお店を持つ女性も出た。

翌92年からハルチョーク(目玉寺の裏)でも、別の15人の少女に服のカッティング、縫製指導を始めた。ヌワコットという郡(タマンという民族が多く住み、ことに貧しい)で、50人の17才から30才の女性達に服作りと公衆衛生を教えた。マヌシから2年間講師を派遣し、その後は、自分達で受け継いでいる。

昨年からは、サムンドラタールというヌワコットの北(ヌワコット郡の中でも特に貧しい地域で、ボンベイ等に売られている女性達の多くがこの村出身)で、アローでの製品作りを始めた。これ迄、現金収入の道がなかった村だが、アローという麻に似たイラクサの一種がとても育ちやすいところだということに目を付け、紡ぎ、布を織ることを指導した。質の

向上の為にも、専門家を一人、政府から派遣してもらっている。

その布のサンプルをネパールの手漉きの紙に丁寧に貼り、詳しい説明をそれぞれ付けて私に下さった。持ち帰り、日本で専門家に見て頂いたところ、素材はおもしろいが、技術的にも、製品の価値の点からもまだまだ及ばないと指摘された。

今後、商品として通用させるには、時間がかかるだろう。パドさん達の情熱がいつか素晴らしい布になることを信じて、共に頑張れたら。



設立後7年目、少しづつ仕事も広がり、売上もわずかだが増えたという(昨年の売上:日本円で440万円)。国内販売の他、輸出先としては、日本が1番多く、イタリア、アメリカ、イギリス、カナダにも送られている。

パドさんの想い

昨年から、お店を持ちたい人に、ローンの貸付も始めた。4万ルピー(日本円で約9万円)なので、小さな店(村の中)だが、マヌシが保証して借りられるようにした。パドさんは、商品をどう開発し、売って行くか、今後の課題は多く厳しいが、この道がネパールの女性を自立させると信じ、続けて行くと力強く言い切る。女性達がお店を持ったり、仕事をしているのを見ていると、とても嬉しいと目を輝かせた。

ネパールの小学校滞在記

春山 洋子

朝礼は9時50分からなのに、9時になるともう早い生徒たちが元気に駆け込んでくる。「Goodmorning Mom!」「Goodmorning Sir!」。静かだった校庭に、親や兄姉に手を引かれて次々と子どもたちがやってくる。お母さんと別れるのがつらくて泣いている子は、1つしかないブランコに最優先で乗せてもらい、笑顔になる。　今日も学校の一日が始まる。

去年の2月から今年の2月までの1年間、仕事を辞めてネパールで暮らした。ネパールと関わりはじめて10年、いつも心の隣国としての熱い思いはあれどその実態は掴みにくく、これから長いおつきあいを続けていくためにも今一度内側から見てみたいと思ったのだ。

単身ネパールに入り、友人の紹介でカトマンズ市内の小さな小学校の一部屋を借りて、一人暮らしを始める。部屋にガス台とプロパンガスを入れて自炊。バス、トイレは共用。一人といっても、上の階には校長先生家族(校長先生といっても30才の青年)と、寄宿している8人の子ども達が住み、いつもにぎやかな声が聞えてくる。

<カトマンズの私立小学校>

現在ネパールでは、公立(政府の)学校の場合5年生まで学費は無料である。ところがカトマンズではやたらと私立の学校を見かける。生徒過剰で先生の少ない公立学校より上の教育レベルを約束する私立学校が教育ビジネスとして入り込んできたようだ。その結果学費を払っても我が子を私立の学校に行かせたいという親が現在カトマンズでは多くなっている。

この学校もそんな私立小学校の一つだ。95年に創立され、今年が2年目。学年は年少から3年生までの6クラス、生徒数は50名。先生は校長を含めて7名。



小学生の子どもを持つ地元に住む一人の親と他の学校で働いていた一人の先生(現在の校長先生)が共同でこの学校を始めた。その親は、我が子にいい教育を与るために自分で学校を作ってしまったのだ。

しかし学校がいたるところにあるカトマンズでは生徒獲得競争は厳しく、現在の経営状態はよくない。学費は月大体200Rs(約400円)。月に10,000Rs(約20,000円)の収入から先生達の給料と家賃を引くと、赤字になってしまう。来年以降生徒を増やしていくたい、と言う校長先生は私には困った状況も言わず、家賃も受け取らなかった。よりよい教育を目指し、また、教育指導の面でもしっかりした考えを持つ校長先生には好感が持てた。

通ってくる子どものほとんどは近くに住む子どもたちだ。私立に通わせるのだから余裕のある家庭が多いかと思えばそうでもなく、生活費を切りつめて学費をやりくりしている家庭がほとんどのようだ。毎月学費納入が遅れがちの家庭もいくつかある。

<英語が大事？ネパール語が大事？>

まだこの学校に住みはじめて日も浅いある日の朝礼で、校長先生から「1年生以上の生徒のネパール語会話禁止令」が出た。授業中はもちろん、休み時間でも英語で話さなければならぬというのだ。

私は納得がいかず、校長先生に尋ねてみた。「親が高い学費を払ってここに通わせて

いるのは英語が話せるようになるためだ。私たちはそれに応えなければいけないし、小さい頃から英語を使っていれば上手に話せるようになる」ということだった。

ネパールの公立(政府の)小学校では、すべての授業がネパール語で行われる。それに対しイングリッシュスクールとうたっている私立小学校では、ネパール語科目以外は英語で授業が行われる。カトマンズでの英語熱も高まっているのだ。

それにしてもネパール遊戯の「かごめかごめ」に似た遊びをやめ、英語の遊びを始めた子どもたちを見て、私の方が寂しさを感じてしまった。

ネパールの学校で暮らし先生たちと話す機会を得たことで、公立学校、私立学校といつてもひとまとめにはできず、教育方針も経営状態も様々であることに今更ながら驚かされた。知れば知るほど複雑なネパールだからこそじっくり関わっていきたい。

活動トピックス

木村雄二医師が来所！

4月12日、ネパリ・バザーロの事務所に木村雄二医師が来所されました。ネパール好きの先生のこと、目的はコーヒーの購入でしたが、合わせて、ネパールのUMNパタン病院で3年半、知珂子夫人とご活躍された模様をスライドをまじえながらお話し下さいました。病理学の立場から、検査機器、検査のご苦労話、日本では見られなくなった結核菌のこと、生活習慣からくるネパールの女性たちの仕事の姿勢が体に悪影響があることなどなど。「女性のこの厳しい状況が変わって欲しい、女性の生活が変わらなければ、この国は変わらない」というお言葉には、その改善の道の厳しさを強く感じさせられました。この6月24日から、またネパールへ知珂子さんとともに赴任されます。お元気にご活躍されることを心から願っています。

レポーター：土屋完二



パタン病院で活躍する木村先生

第1回フェアトレード学習会開かる！

5月18日、事務所に近い本郷地区センターの会議室で、「開発と女性の視点から見たフェアトレード」と題して、曹洞宗国際ボランティア会の澤元真由美さん(企画調査室)からタイ北部山岳民族の村での調査活動の状況を中心にお話を聞きました。

当日は、メンバーの知合いを含めて18人が参加されました。

昨年の9月と11月の2回に渡り、タイ北部パヤオの山岳民族「モン」の村へ調査に入り、クラフトを作るまでの生産者の立場・女性の負担・村人の生活の変化等にどのような効果があったかを、インタビュー調査しました。

その中で、一夫多妻制に精神的苦痛を感じ離婚した女性がクラフトの仕事によって今までに比べ、肉体的に負担の少なく、子供の養育がし易い生活になった例もありました。

また、クラフトに参加している約30人の女性達が月1回のミーティングを通して生き生きとした発言をするようになり、お互いの情報を交換したりと学習の場にも精神的な拠所にもなっている、とのことです。

レポーター：大野達雄

あ！これ新しい

前回から会報に新しく登場、「あ、これいいな」と「あ、これ新しい」のコーナーです。今までになかった新しい商品をご紹介したり、定番の商品でも「おお、こんな使い方もできるのか！」というような目からうろこ情報をお送りしたいと思います。

さて今月の「あ、これ新しい」はお買い物に連れてって、**ネコロジーバッグ**です。薄手のコットンバッグにネコ、イヌのイラストが入っています。たとえばバンダナくらいの大きさになり、かばんに入れるのも樂々。もうこれでスーパーの

あ！これいいな



「Pop入り。
まっ茶のような香りも
髪につけている間の
リラクゼーションに
なりとうです。」

ショートヘンは1箱で2回位。
ロングは1回かみやすです。



白髪はメッシュカットで、好みたいに
ね、2おしゃれさ。



ヘナ 70g 1,000えん

袋はいりません。ネパール、バクトブルの小さな小さなシルクスクリーンの工房で製作しています。ちなみにネコのモデルは廣田の家に住んでいるムトト嬢（スルリ語で「子ども」の意）です。可愛がってくださいね。



ネコロジーバッグ 500えん



ヘナとは主に北アフリカ、中東、インド、ネパールに分布するミソハギ科の低木で、何と紀元前から女性の頭髪のトリートメントや白髪染め、マニキュア、布や糸の染料、頭痛ややけどなどの治療、防臭剤などなど幅広く使われてきました。もちろん現在でも多くの国で女性が頭髪のトリートメントや白髪染めに利用しています。今回ご紹介するこのヘナも、ヘナの葉だけを乾燥させて粉末にした純粋な植物染料です。水で溶いてクリーム状にし、それを髪に塗り、1~2時間おけば髪はしっとりツヤツヤ。白髪の部分は赤~橙のメッシュが入ったように染まって1トーン明るくなります。詳しいご使用法はお尋ね下さい。

廣田 麻紀子

● ● ● ● ● ●
• お便り紹介 •
● ● ● ● ● ●

こんにちは!「ヒマラヤン ワールド」をいつもおいしくいただいております。

6月初めに4袋送っていただくことになりますが、明日にでも送っていただくことは可能ですか? コーヒーが無くなってしまい禁断症状が起きているのですが。

一度「ヒマラヤンワールド」をいただくと市販のものは、飲む気になれず困っています。

5月 29日 香川県 観音寺市 渡邊レリ様

● <図書のご紹介>
● 「行ってみようあのお店：
● フェアトレードの本」

● 発行：ネパリ・バザーロ

● 定価:500円

● 関東で頑張っているフェアトレードのお店のリストや、インタビューでその様子を、わかりやすく紹介しています。
● 是非、お読みいただいてお近くのお店を覗いて見てください。

<インターネット ホームページ>

ネパリ・バザーロ/ベルダ レルネーヨのホームページでは、ネパールのこと、フェアトレードのことなど詳しい情報を届けています。

ホームページアドレス
<http://www.yk.rim.or.jp/~ngo/>

 この8月で、ネパリバザーロも6年目にあります。皆様のご協力に心から感謝申上げます。ヤンドラさんの研修も実現し、喜びと共に責任の重さもヒシヒシ!

(春代)

 編集会議・スタッフ会議・・・と皆で賑やかに進めています。忙しくとも、楽しく充実しています。(完二)

 8月にまたネパールへ行きます。準備をしないといけないので、毎日があたふたと過ぎていきます。(早苗)

 毎日わからないことだらけですが、なんとかくっついて行こうと思います。どうぞよろしく。(洋子)

 フェアトレードという言葉が広がっていくとともに扱う商品も増え、日に日に腰痛がひどくなります。フェアトレードと腰痛は比例する!(麻紀子)

 今回から編集を担当します。記事を書くのも大変ですが、それをうまく収めて期限までに仕上げるのもヒー!たいへんだア。(昌治)

1997年6月 発行

発行所：ベルダレルネーヨ
ネパリ・バザーロ
〒247 神奈川県横浜市栄区桂町274-15
第2中山ビル 3階
Tel 045(891)9939
Fax 045(893)8254

編集責任者：太田昌治

編集担当者：土屋春代

土屋完二

廣田麻紀子

魚谷早苗

春山洋子

この通信は、再生紙、エコペーパー100で作られています。